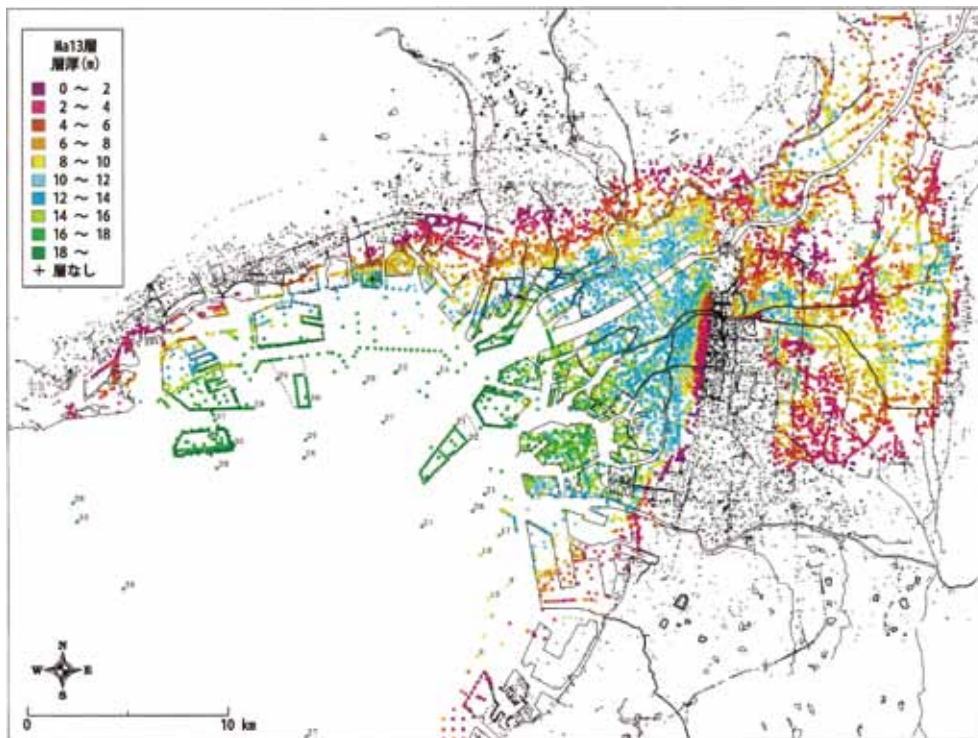
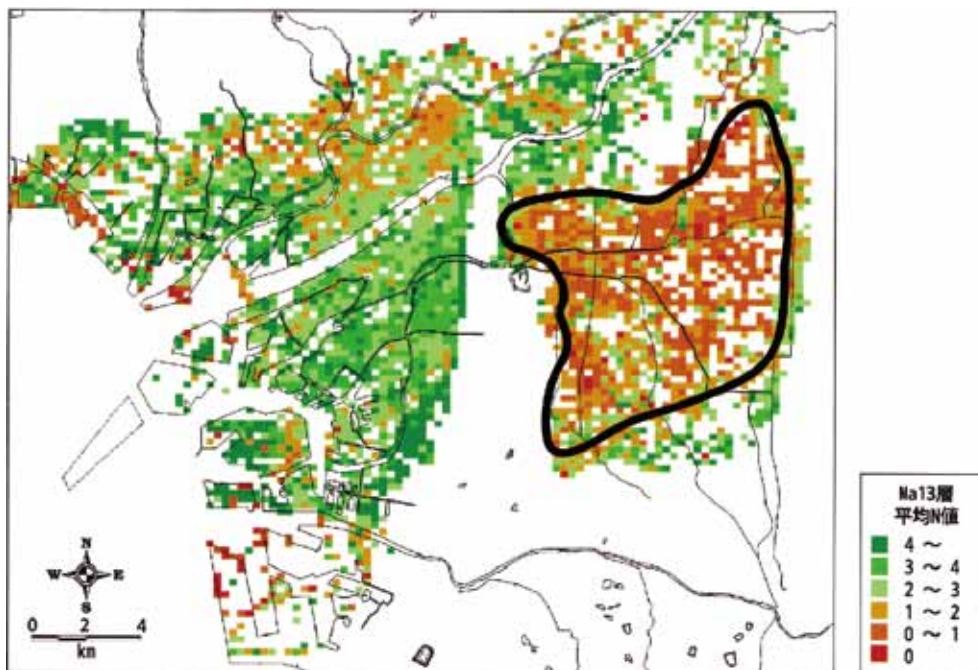


7. トラブルの発生しやすい地盤の特徴と特性について

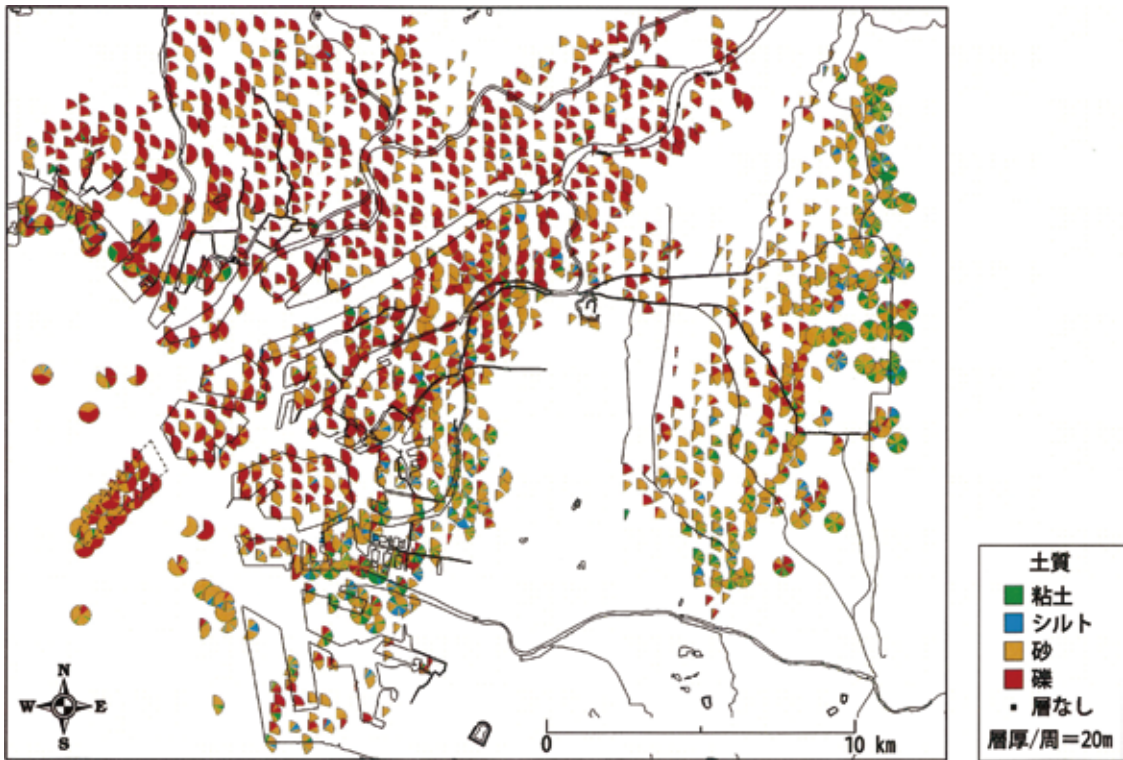
(本文 53～60 ページ参照)



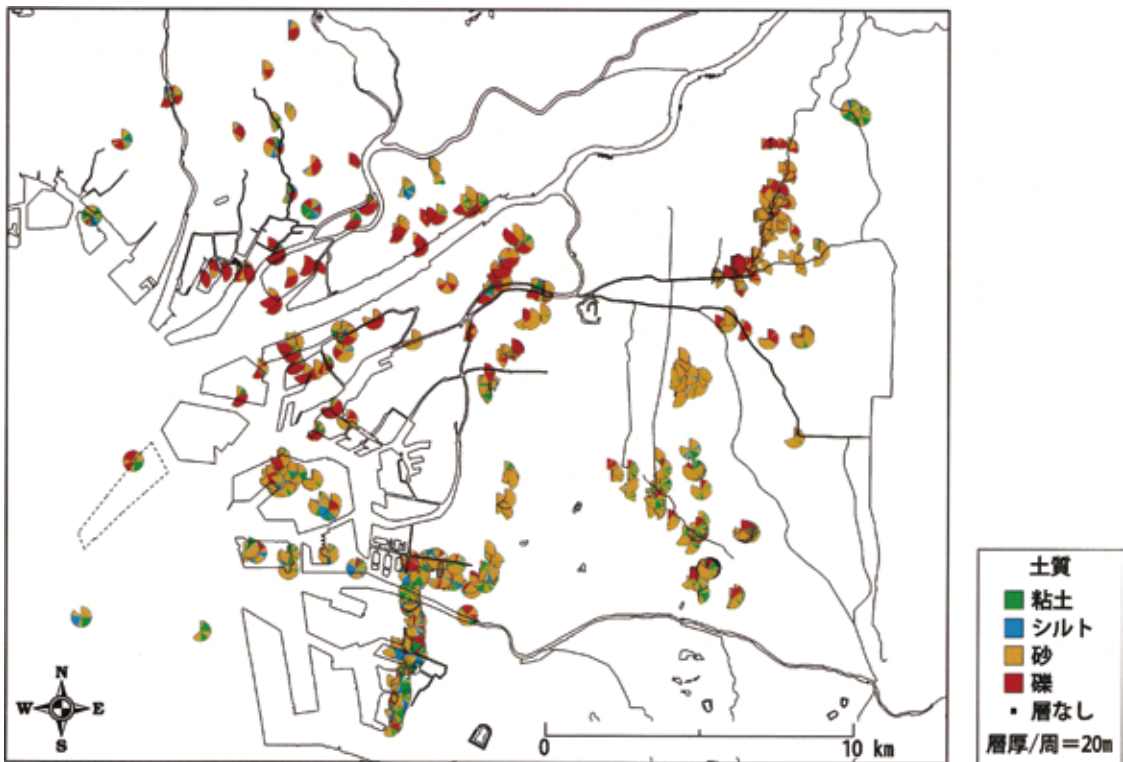
口絵写真一 1 海成粘土 (Ma13) 層の層厚分布図⁵⁾



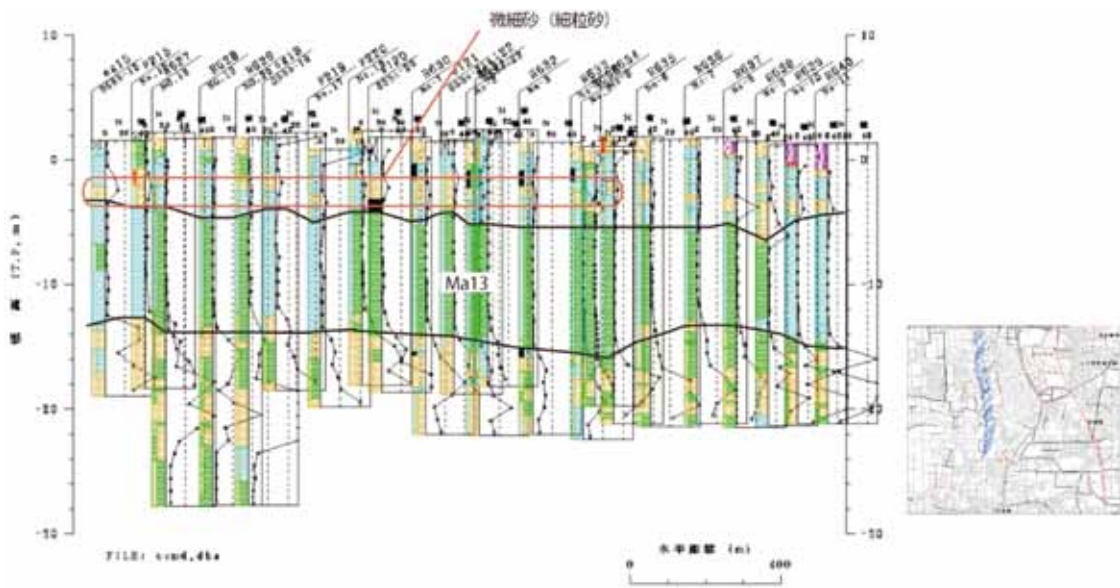
口絵写真一 2 沖積粘土層の各孔内における平均 N 値分布⁵⁾
黒枠で示した地域が N 値 0 あるいは 0 に近い値を示しており、鋭敏粘土が分布する地域である。



口絵写真－3 第1洪積砂礫層の土質分布図⁵⁾
 淀川周辺および武庫川の部分は礫質のものが卓越し、東大阪地域の東側(生駒山のふもと)付近では厚い粘土・砂が分布する。



口絵写真－4 第2洪積砂礫層の土質分布図⁵⁾
 淀川河口周辺では礫質のものが多く、東大阪地域北部は礫・砂が多く、南部は砂・粘土が多い。西大阪南部では砂・粘土が分布する。



口絵写真一 5 微細砂情報のあった地域のボーリング断面図
 微細砂の分布する深度は、沖積粘土(Ma13)の上部の漸移層に相当する部分で、やや有機質を含む、海退時の堆積物であると考えられる。